

1 p40 を用いた肺腫瘍捺印細胞診
2 の検討

3
4 米川球恵 小野寺清隆 鈴木学 山田千裕
5 岩井優 小木義貴 大木昌二
6 (千葉大学医学部附属病院 病理部)

7
8 【はじめに】従来、肺癌において小細胞癌と非小細胞癌の鑑別が重要視されてきたが、近年、治療選択の側面から扁平上皮癌と非扁平上皮癌の鑑別が重要とされてきた。また、組織診断を行う際の気管支鏡等による検体の採取は発生部位によっては困難な症例もあり、その場合は穿刺吸引や擦過による細胞診断が治療方針の決定に重要な役割を担うことが今後重要となってくる。

16 【目的】細胞診における腺癌と扁平上皮癌の鑑別は低分化な症例においては非常に難しく、免疫組織化学が補助診断として有用である。すでに当院で腺癌と扁平上皮癌の鑑別に有用性が確認されている p40 を用い、細胞診・組織診における診断不一致例での細胞像および免疫染色検討結果を報告する。

22 【対象と方法】肺腫瘍捺印細胞診において腺癌(6症例)、扁平上皮癌(7症例)と診断された検体を用いた。細胞診検体の組織薄切切片を用いて免疫染色(TTF-1、p63、p40)を行い、各症例の染色態度と細胞像について比較検討した。

27 【結果】細胞診で扁平上皮癌と診断した6例中5例で TTF-1 陽性、全例で p40 陰性であった。また腺癌と診断した7例については TTF-1 全例陰性、p40 全例陽性であった。

31 【考察】今回対象とした症例において、壊死性背景、クロマチンの不均等な増量、核小体不明瞭、細胞質が比較的厚く核クロマチンが粗雑などの所見が見られた場合、扁平上皮癌に診断されやすく、また、N/C比が高く裸核状、核小体明瞭を示す細胞では腺癌と診断されやすかった。

37 このような鑑別困難な症例では P40 を用いることが両者の鑑別に有用であると考える。

39 連絡先 043-222-7171(内線 6401)